

令和4年度 学校評価の取り組み報告 ～ダイジェスト版～

【今年度の取り組み状況】

夏1回目実施

「IV保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度」

「幼小連携の意義やあり方について興味・関心をもてるよう支援している」について。コロナ禍で今まで行っていた小学校の先生を交えた研修会ができなくなり、職員がどのように考え意識しているかがわからないところがあった。8/4 幼保小連携研修会と 8/19 佐藤先生の研修会にて、幼小連携についてや 10 の姿から就学に繋がることを研修内のグループワークで学びを深める機会を作ることとした。

【研修会】

<8/4 幼保小研修会 内容>

○幼児教育センターの役割と幼保小連携について」研修会

<東京家政大学 佐藤先生研修会 内容>

【職員アンケートより】

- ・今行っている体験、遊びが小学校への学びに繋がっていると理解できた。
- ・グループワークを行ったり、自分自身で考える機会があったことで、“幼保小連携”を難しく捉えすぎていたことに気が付いた。今回の研修で取り組みが明確になったので、保育にどのように生かしていくか考えるようにする。
- ・園内研修という形でできた為、自分が理解しているだけでなく、他職員が知る機会で作れていると感じた。

【まとめ】

2 回の園内研修を経て、幼保小連携と聞くと難しく捉えていた職員が普段の保育が幼保小連携に繋がっていることに気づくことができ、硬く思えた幼保小連携への壁も砕けたと感じる。それと共に、興味・関心にも繋がった。また、具体的に保育に生かせることも考えることができた

冬2回目実施

度重なる園児を巻き込む事故や事件に対し、園の職員全体で子どもの権利の共通理解や安全対策について自分たちの保育はどうか振り返る機会とするため、必要な項目だけを抜粋して自己点検を行った。分析の結果、評価の低くなってしまった「保育の在り方幼児への対応」「保育の在り方、3歳未満児への対応」について。各年齢による関わり方の違いとは？ありのままの姿とは？受け入れることだけが子どもの育ちに必要なのか？などをグループディスカッション(GD)をして話し合うこととした。

【グループディスカッションについて】

- ①どのような場面で禁止語を言ってしまうがちなのかをみんなで日々の保育を振り返った。
- ②様々な場面がある中で、適した声掛けであるのか？や、より良い伝え方は他にあるか？を話し合い、**短い言葉で簡潔に子どもの行動を制止しなければいけない場面**と**声掛けや関わりで促せる場面**を危険度別に分けた。
- ③危険度が高くなるほど、子どもの命を守るために短い言葉や、時には禁止語を使ってでも子どもの行動を制止させる必要があるのだと確認した。それらの場面でも、子どものより良い学びとなるようにどのような言葉がけや関わりができるのか改善策を考えた。

【まとめ】

話し合いの中で、現在問題となっている**不適切な保育**に該当する関わりとなる可能性もあることをみんなで確認できました。改善策のような関わりや声掛けなど子どもへのフォローを意識し、子どもの学びや活動意欲に繋げて

いく事が必要だと感じた。

短い言葉で簡潔に子どもの行動を制止しなければいけない場面と、**声掛けや関わりで促せる場面**を見分けることの大切さを共有できた。言い換えられる禁止語は言い換えたり、保護者への分かりやすい状況説明を意識し、園や保護者、子ども自身などみんなで安全を保っていく事の重要性を共有した。



<来年度に向けて>

園生活の中で、こどもたちへの関わり方や言葉掛けが「不適切な保育」に該当していないかを意識し、自他ともに確認していく。

安全のために禁止語が必要な場面なのか、声掛けや関わりで促せる場面なのかを考え、言い換えられる禁止語は言い換える。必要な場面で禁止語等を使った時にはこどもたちへのフォローや保護者への分かりやすい状況説明を行っていく。

<学校関係者評価委員会の方からのご意見>

- ・自己点検・自己評価で、保育者が自分達の保育の「できていない点」について低い評価をつけている点がとても良いと感じた。人間は弱いところは隠したくなるものであるが、できていないことを声に出して言える園はとても良い。ぜひ継続して行って欲しい。
- ・保育園留学はとても良い取り組み、継続して取り組んで行って欲しい。
- ・3年間、PTA 役員として学校評価委員会に関わらせてもらい、先生方一人一人や園全体として子どもの事を考えて日々保育に取り組んで下さっていることがよく理解できた。委員のメンバーになったからこそ知ることができた部分も大きく、とてもありがたく思っている。
- ・金城幼稚園・保育園では、春の遠足で住吉神社を訪問する活動がここ数年定着してきている。地域の環境を理解し、活用する取り組みは今後も続けて行って欲しい。園児と触れ合った地域役員も、『また園児が来るから神社を掃除しよう』など楽しみにしている。
- ・子どもへの声かけや関わる姿勢は教員の技術として身につけなければならないものであるが、根底には子どもへの愛情や子どもの人格を尊重する姿勢がなければならない。とても大切なこと。今回の取り組み、とても素晴らしい。
- ・この地域の方々の生活の温かさを改めて感じた。子ども達のことをよく考え、園と保護者が日々を積み重ねていることが皆さんのお話の中で読み取れた。連携している教育機関、地域の方の存在もとても心強い。
- ・先般、不適切保育が社会問題として話題となったが、これだけの取り組みをしている園もあるということを知ってほしい。園として、もっと情報を発信して行って欲しい。私も学生に伝えていきたい。(大学教員)
- ・“小学校との連携”という部分でこの委員会メンバーとして参加させていただいているが、これらの内容を学校の中で共有できているかについては、まだこれからの課題と思っている。より密に保幼小連携に取り組み、小学校の生活に繋げていけたらと思う。